

## 令和6年度 事業運営方針 (案)

### I はじめに

当連盟は、本県の自転車競技統轄団体であり、(公財)日本自転車競技連盟(新潟県加盟団体)、(公財)新潟県スポーツ協会加盟団体であり、サイクルスポーツの普及発展を図り、サイクリストの心身の健全な発達に寄与することを目的として事業推進する。目的達成のために関係機関との連携を図りながら社会貢献に尽力していく。

2009トキメきにいがた国体、2012北信越かがやき全国高校総体、11回目となる新潟ヒルクライム(弥彦山)や10年目となる南魚沼サイクルフェスタ(プロロードレース、クリテリウム、グルメライド)、JBCF 弥彦ロードレースの継続実施等により、これまでサイクルスポーツの魅力と価値の実感をアピールする活動を実施してきた。今後も継続の方針で推進していく。

本年度の最重点課題は、各世代、各性別の競技者数増大と競技成績向上及び普及活動の推進である。少子化やジュニア世代のスポーツ離れの現状は社会現象でもあるが、ジュニア育成の拡充こそが、自転車競技の普及及び強化を推進する基盤あることは間違いない。

自転車競技の魅力を感じるサイクリストの底辺を増大させ、「新潟から全国や世界の大舞台で活躍するサイクリストを輩出する」というトップアスリート育成の構図も忘れてはならない課題である。

上記課題に向き合いながら、信頼ある競技団体であり続け、サイクリストが安心して競技に取り組める環境を維持していくことを踏まえた事業推進をしていく。スポーツ庁ガバナンスコードに対応したガバナンスの構築により、公益性と社会的意義を自覚した透明性ある競技団体を運営していくことを自覚したい。役員と会員が法令や規約を遵守し、ハラスメントや不法・不正行為防止に努め、コンプライアンス推進の高潔性確保に努めた運営をしていく。

### II 事業推進の方針

#### 1 競技力向上

自転車競技に取り組む各年代、男女競技者拡大

競技者の公認大会での活躍と成長(心技体)への支援

選手育成、派遣、目標達成の具現化

- ・国民スポーツ大会の各種別男女の得点獲得
- ・新潟ジュニア育成事業と地域ジュニアスポーツクラブ育成事業及び中学校休日部活動移行の関連性を持たせた活動

ジュニア育成システムを重点事業とし強化と普及の一体化を図る取り組みを探る

## 2 普及・振興

- (1) 多様化するサイクルスポーツに対応した普及大会やイベントの開催
- (2) 各種大会の主催、共催、後援支援
- (3) 指導力の向上及び競技力強化に向けた研修会の開催  
大会運営、チーム運営に携わる者の資格取得者増大と研修の実施

## 3 組織・財政基盤の確立

- (1) 年間計画に基いた見通しのある事業推進
- (2) 財政基盤安定を図るため有効的な資金運用に努め、自主財源確保も踏まえた事業推進

### 事業の具体的取組

- ① 各理事の適材適所での活躍と委員会連携におけた取り組み  
常任理事会、春の総会、理事会（秋 冬）、各委員会の整備と機能
- ② 財源確保  
会費収入や大会運営事業収入増に向けた大会運営、計画的な補助金申請、及び協賛金、寄附金を募り自主財源増額を図る。
- ③ 大会派遣  
(公財)日本自転車競技連盟、(公財)全国高体連自転車競技専門部、日本学生自転車競技連盟、関東自転車競技連合大会への選手派遣、スタッフ派遣、大会費用支援、機材貸与
- ④ (公財)新潟県スポーツ協会競技水準向上事業の推進  
国スポ選手強化事業の計画的実施、高校スポーツ強化指定校の協力・新潟ジュニア育成・地域ジュニアスポーツクラブ育成の年間計画立案と活性化  
国民スポーツ大会で個人、総合入賞を目指すため体制の整備
- ⑤ 主催大会の開催  
JBCF ロードレース弥彦大会 県選手権トラックレース(国スポ1次選考)、国スポ二次選考会、県車連トラックレース、ロード個人タイムトライアル選手権実施
- ⑥ 関係団体との連携、協力  
(公財)日本自転車競技連盟 関東自転車競技連合  
(公財)全日本実業団自転車競技連盟 (JBCF)、日本学生自転車競技連盟 (公財)全国高体連自転車競技専門部等の大会主管や協力  
弥彦競輪クラブスピリッツ事業  
新潟県 BMX 協会、シクロクロス等競技団体、新潟県トライアスロン連合  
新潟県スポーツ協会、県スポーツ課  
新潟ヒルクライム実行委員会、南魚沼サイクルフェスタ実行委員会  
湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会